

洋画部門

総評

ここ数年、高校生の皆さんの力作が出品され、うれしく思っていたが、今年はこれまで出品されていた社会人の作品が充実し、全体として作品の質の向上を感じる展覧会となった。高校生で受賞された方々の今後の成長を楽しみとするとともに、安来市美術展の発展に協力をいただきたく思う。(山崎道弘審査員)

■市長賞 「里山の秋」 池田 稔

里山の秋を抽象的に表現した秀作である。画面の構成もしっかりしており、豊かな実りの喜びに満ちあふれている。(仲西嗣雄審査員)

■安来市文化協会賞 「思い出を額縁に」 島田 妃秋

額縁にこめた思いを画面一杯に構成した素敵な作品である。取り入れた対象物も確かな写実力でしっかり表現している。(仲西嗣雄審査員)

■広瀬町文化協会賞 「花」 長谷川 智

植物のデッサンは、観察力、描写力とも高度な技術を求められる。その力を備えた作者により描かれた作品。生花の構成が、美しい空間を作り出している。色調も統一され、白いカサブランカをひき立たせる秀作である。(山崎道弘審査員)

■安来市加納美術館賞 「虫の楽園」 古志野 亮太

虫の世界をデザイン風に配置した力作。以前と比べてより鮮やかになった色彩が目をひく。中央から右にかけての青い余白と、デフォルメされた虫たちが快いハーモニーを効果的に奏でている。(近藤隆審査員)

■奨励賞 「浅瀬の海模様」 二岡 富夫

浅瀬に立つこどもの様子がとても印象的です。見事な海面の描き方に実力を感じます。島から空の上部は、もっと色を落していくと手前の海とマッチすると思います。油絵の技術が素晴らしいです。(花谷久代審査員)

■奨励賞 「千の手を持つ男」 森田 凧莉

人物を中心にどんと描いた力作。千手観音像から着想を得て、たくましい腕を配し、左右の杖での画面区切り、波のブルー、背後の黄や緑が効果的にはたらき、迫力のある画面を見事に作り上げている。(山崎道弘審査員)

■奨励賞 「加茂川の船着き場」 仲田 嘉文

よく見かける米子の加茂川の風景ですね。好天の日の加茂川の陰影がすがすがしく、木版画の特徴をいかして表現されています。構成もよく、川面に映る黒壁、舟影も現れており、細部の刷りに感心します。(花谷久代審査員)

デザイン部門

総評

デザインは、見る人に自分の思うメッセージを伝えることが第一の目的であり、ポスター、イラスト 造形など多彩な表現方法が可能である。さらに手描き、CGなどどんな手法をとってもよい。しかしながら出品者が少ないのが難点である。これからは、多くの人に意欲をもって出品していただきたい。(近藤隆審査員)

■奨励賞 「未来永劫」 平木 未来

青とピンクを基調に水彩で爽やかに描かれた秀作。お互いに握られた手で2人の関係性が見る人に良く伝わる。ストーリー性もあり、色々な想像力をかき立ててくれる。このスタイルを今後も発展させてもらいたい。(近藤隆審査員)

■中央画材賞 「私の家族を紹介します」 永島 なつみ

これぞデザイン作品といえるCG作品。家族の一員である犬の豊かな表情としぐさから、作者の愛情が伝わってくる。デザインは添えられた言葉も重要な要素で、そのメッセージが、作品の質をさらに高めている。(近藤隆審査員)

写真部門

総評及び選評：仲佐 勝巳審査員

総評

ネイチャーや心象、風景、ポートレート、祭りなどバラエティ豊かな写真が揃っており、見応えがある内容になっています。自分自身の次回の撮影の参考になると感じました。そして多くの方に安来市美術展に出品していただくと嬉しく思います。

■市長賞 「初春」 長谷川 公子

神事で巫女さんが頭をさげたその時を捉えた一枚。巫女さんの背中から光が当たり、中央の柱に巫女さんの影が映っている。見ている者を引き込むすばらしい作品です。また中央の柱にある扉の赤色が、写真全体を引き締めています。

■安来市文化協会賞 「街角」 吉岡 千代子

白い壁にこどもさんぐらいの背丈の白い帽子をかぶった熊の絵、かわゆく見えたり、ちょっと不気味に見えたり、いろいろな想像をさせてくれます。カラー写真なのに白黒調に見え、撮影者の遊びどころが感じられる良い作品です。

■広瀬町文化協会賞 「脅威」 米田 直之

トリックアートのような不思議な作品です。何回も撮影をされたのでしょうか、2人で声を掛け合ってる景色が目には浮かびます。作品全体がシックなおしゃれな写真に仕上がっています。これからの作品づくりに期待しています。

■安来市加納美術館賞 「視線」 田中 博義

光と色がとても美しくまとまっています。特に小さなカエルが乗っている細い葉っぱは、水滴がたくさんあり、まるで光の道のように思わず見入ってしまうすばらしい作品に仕上がっています。

■奨励賞 「圧巻のパフォーマンス」 真砂 昇平

水郷祭の迫力ある花火の写真です。撮影場所選びから入念に準備して出来た「圧巻のパフォーマンス」すばらしい作品です。いろいろな角度から花火を捉えた作品にも挑戦して下さい。

■奨励賞 「ここに幸あり」 稲田 崇

結婚式の1コマ。撮影者の嬉しい気持ちや、会場の笑い声が伝わってくる写真です。ポートレートも作品づくりにはかせないと思います。

■奨励賞 「夕焼け小焼け」 遠藤 勉

迫力のある夕焼けですね。画面いっぱいにあふれでそうな赤い雲。下には旧型のやくも“二度とないこの瞬間”、そんな気持ちが伝わる作品です。

■(株)山陰フジカラー賞 「それぞれの朝」 石原 康博

朝の風景。コウノトリが入って写真がしまり、全体に桜色になっている所が朝のすがすがしさを出しています。美しい1枚です。

日本画・水墨画部門

総評

今年は作品の総数も少なくなり淋しい点もありますが、日本画の作品が4点となる一方、水墨画が10点と、昨年より増えました。作品製作は、技術的な難しさにとどまらず、時間を工面する大変さもあります。しかしながら、安来市美術展を盛り上げていけるのは、ここに出品されている皆様と、その周りにいらっしゃる作家の方々への声かけが大切だと思います。皆様の努力をお願いします。(中川端月審査員)

■市長賞 「かじか鳴く谷」 内田 洋彩

渓谷の中で滝から落ちる水の音を連想させ、岩と木立と水が見事に組み合さり、とても素晴らしい仕上がりになっています。特に岩の表情が遠近感をよく表現しています。墨のかすりを効果的に描き上げられた立派な作品です。(中川端月審査員)

■安来市文化協会賞 「清夏」 広田 あつ子

爽やかな朝の空気を感じさせる作品となっています。もみ紙という日本画の技法を巧みに使い、淡く細かい絵の具での色の構成が美しい光のようなものを感じさせています。(東野布由美審査員)

■奨励賞 「夏の終り」 小谷 紘子

ルージュとうもろこしの紫色が画面全体に配されています。扱いの難しい黒箔と紫色がごく自然に溶け合い、モダンな画面が表現されています。とうもろこしの葉も葉脈まで丁寧に慎重に塗り重ねられて、とうもろこしの質感が伝ってくる秀作です。(福岡小夜子審査員)

■奨励賞 「早春の朝もや」 吉村 依子

墨の濃淡を使い分けられて奥行が感じられます。近景の濃墨にかなり苦労された様子がうかがえます。もう少しもやの変化があれば市長賞がねらえた作品です。(中川端月審査員)